（様式２・中学校用①）

令和２年度　学　校　評　価　報　告

草加市立　川柳　中学校
（令和３年１月２６日作成）

１　学校教育目標

【賢く】　・「主体的・対話的で深い学び」に取り組み、未来を力強く切り拓く生徒
　　・自分の思いや考えを伝えられ良識ある判断ができる生徒
【優しく】・自他一人ひとりをかけがえのない存在として大切にし、正しい行動のとれる生徒
　　・誰とでも協力して活動し、喜びを分かち合える生徒
【逞しく】・共に磨き合い、課題や目標に挑戦し、あきらめない生徒
　　・健康の保持増進と体力の向上に努め、安全な生活を心がける生徒

２　重点目標・努力目標

・「主体的、対話的で深い学び」の視点での授業改善と学習習慣の確立による学力の向上
・生徒を認め、鍛え、育む中での豊かな心と逞しい体の育成
・幼保小中を一貫した教育の推進

３　前年度の成果と課題

成果　○コロナ対応で、例年と違う学校生活であった。その中でも、生徒は学校生活を楽しく過ごし、部活動や係・委員会活動に積極的に取り組んでいて、評価も高い。

課題　●家庭学習が課題である。昨年度と同様の評価であり、目標には届かなかった。意欲的に学習して、授業はわかりやすく楽しいと回答している生徒が多いため、結果に結びつくように、学力向上に取り組んでいく。

４　評価表 ※評価基準〔Ａ：十分達成している　Ｂ：おおむね達成している　Ｃ：やや不十分である　Ｄ：不十分である〕

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅰ　学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○学校教育目標が教職員に周知され、目標を目指す教育活動が行われた。 ●コロナ対応について、職員間の意識の共有が不足したことと、対応の差が見られた。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○「主体的、対話的で深い学び」を意識し、振り返りを重視した授業が行われた。 ○コロナ禍ではあったが、研究委嘱本発表を行うことができた。 ●本発表について、準備や内容に不足した部分があった。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○ＡＥＤの使用方法や救命措置について、昨年度の経験を活かした研修を行った。 ○コロナ対応についての協議を複数回行い、生徒への指導に活かした。 ●虫歯予防の取組の継続ができなかった。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○職員一人ひとりが、個人情報の校内規定を遵守し、厳正な情報管理に努めている。 ○校舎の改修工事終了し、安全性が向上した。 ●雨漏り、トイレの詰りなど環境衛生の向上に努める。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○学校から配布される各種たよりの内容充実と、ホームページの更新に努めた。 ●学校公開等、地域の方との交流する場面や行事が中止となり、限られた交流しかできなかった。
	⑥幼保小中を 一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○担当教員が週４日小学校へ行き、充実した授業が行えた。 ●研修会や交流行事の中止により、十分な活動が行えなかった。

（様式２・中学校用②）

草加市立　川柳　中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅱ　教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保	A	○すべての教職員が教育目標を意識した教育活動を行い、学年学級経営に生かした。 ○年間計画を見直し、教育課程の実施状況確認を適宜行った。 ●新学習指導要領の施行に向け各教科・領域の年間指導計画の見直しが遅れている。
	②教科指導	・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用	A	○学力向上プランのわかる授業の実践を行うとともに、「まとめ」「振り返り」に注力した授業を昨年以上に行うことができた。 ●令和３年度からの３観点での評価・評定の検討が遅れている。
	③道徳教育	・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進	A	○学年の道徳を時間割上に帯で位置づけ、副担任も含めた学年職員全員で授業を行った。 ●教材の共有や保管方法が徹底されなかった。
	④特別活動	・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・生徒会活動	B	○学年を超えたリーダー育成をねらい、リーダーガイダンスを実施した。 ●生徒の自主性・自己肯定感を育む活動に取り組む努力はしたが、行事が中止になり、活動が縮小されてしまった。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用	A	○学校行事が中止になる中で、それぞれの学年で工夫を凝らした取組が行えた。 ●年間指導計画・目標設定と評価の在り方を検討し実施していく。
	⑥生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、生徒理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携	B	○学習指導補助員の不登校生徒の対応が充実し、学年職員と連携を図りながら対応ができた。 ○不登校の解消に、学校全体で取り組んだ。 ●学年間の連携・協力を強め、学校全体の指導力を高めていく。
	⑦キャリア教育	・組織的なキャリア教育 ・指導方法の工夫と改善 ・啓発的経験の充実 ・進路情報の収集・活用 ・職場体験活動	B	○多くの制約がある中で、生徒や保護者に対しての情報提供と進路指導を行った。 ●多様化する進路に対する教職員の協力と指導力の向上に努める。
	⑧特別支援教育	・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備	A	○校内研修を実施し、特別な教育支援を必要とする生徒の指導に努めている。 ○交流教育が授業や行事において積極的に行われている。 ●特別支援教育の研修充実を図り、職員全体の理解と実践力を高める。
	⑨学校図書館教育	・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫	A	○図書資料の充実や掲示物の工夫など、読書環境の整備がさらに進んだ。 ○休校期間中に、図書の貸し出しを行った。 ●委員会活動をさらに充実させ、生徒の図書室利用と読書した本の冊数をさらに増やしていく。
	⑩情報教育	・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ＩＣＴ機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進	A	○ＩＣＴ機器、デジタル教科書等を活用する教員が増加し、授業の充実が図られている。 ●ＰＣやスマートフォン等の使用における生徒たちの情報モラル教育の計画・推進を図る。 ●教室によって変わるＩＣＴ機器の接続環境の改善がなされないことへの不安。
	⑪人権教育	・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実	B	○人権作文・人権標語・人権メッセージへの全校的な取組ができた。 ●ＣＤ・ＤＶＤ視聴等の計画的な実施。

（様式２・中学校用③）

草加市立　川柳　中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①　学力向上・授業改善	・授業改善の取組 ・校内研修の推進 ・研究組織、計画	A	○「主体的、対話的で深い学び」の視点での授業改善を行った。 ○昨年までの研究をさらに進め、３つの仮説（思考の活性化・振り返りの重視・思考の可視化）に沿った授業の工夫改善を行った。 ○休校期間中の生徒の学びを支援する学習動画の製作と配信を行った。 ●授業時間の確保とコロナ対策により、話合い活動などが十分に行えなかった。
	②　ＩＣＴ機器の利用	・授業改善の取組 ・校内研修の推進 ・研究組織、計画	A	○ＩＣＴ機器を利用した授業展開と授業改善に取り組んだ。 ○「校支援」の研修を行い、校内業務の効率化とデジタル化を推進した。 ●ＩＣＴ支援員との連携の強化、引き続きの業務の効率化とデジタル化を進める。

5　総合評価（学校関係者評価を含む）

本年度の学校評価は、昨年度と同様に保護者・生徒・学校評議員から高い評価を得ている。しかし、本年度は新型コロナウイルス感染症対策のための休校期間があり、従来通りの教育計画が行えなかった。学校行事は中止となり、保護者の来校も限られた中での教育活動となった。

学校に対する保護者の願いは、①基礎的な学力をつけてほしい　②思考力・判断力をつけてほしい　③豊かな心・道徳性をそだててほしい　であり、これは昨年と変わっていない。また、「学校は学力向上のための努力や工夫をしているか」の評価(A+B) R1 85%　→　R2 88% に上昇したことは、学力向上の取組が理解されていると思われる。一方で、「学校は家庭への連絡を積極的に行っているか」の評価(A+B)　R1 93%　→　R2 89% に下がっている。学校の情報発信と家庭への連絡は今までよりも丁寧に行ってきたが、今年度はそれ以上に保護者の不安が大きくなったのではないかと考える。

生徒評価の課題は、「家庭学習をよくしている」の評価(A+B)　R1 77%　→　R2 78% であり、低い評価のまま変わっていない。

今年度の埼玉県学力・学習状況調査については、学力が伸びた生徒の割合は県平均を超え、本校の授業改善の成果と考える。全国調査は中止になり、草加市調査は１月に行いまだ結果が出ていない。草加市調査については、結果が出次第、分析を行う。

6　次年度の改善策

研究委嘱を受けていた「生きる力プラン」（2018年度～2020年度）の本発表は終了したが、「主体的、対話的で深い学び」の視点での授業改善は今後も続けていく。

来年度は「ＧＩＧＡスクール」の始まりであり、生徒１人１台のタブレット端末を利用することになる。導入された当初は、様々な問題が出てくることが予想される。問題があるから使わないではなく、出来ることを行いながら問題を解決することが必要である。教師と生徒の双方にとってより良い学びの環境をつくらなくてはならない。そのために、①ＩＣＴ関係の校内研修の充実②問題点の共有と改善　をしっかりと行う。

また、不登校生徒の対応については、より一層の対応を強化して問題の解決に取り組む。担任・学年だけでなく、さわやか相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、学習指導補助員等、チーム川柳中として対応する。

コロナ問題を乗り切り、新しい学校の姿を目指し、教職員と生徒、保護者や地域の方々と協力して信頼される学校づくりを目指していく。